

地球にやさしい環境対策

## 家畜糞尿が "車" の燃料に変わるってホント? (2)

株式会社CDMコンサルティング  
環境コーディネーター 林 三津子

前回(10/19 アグリビジネス経営塾 341号)、このテーマで原稿を掲載させて頂きましたところ、いろいろな反響やお問い合わせがあったようです。

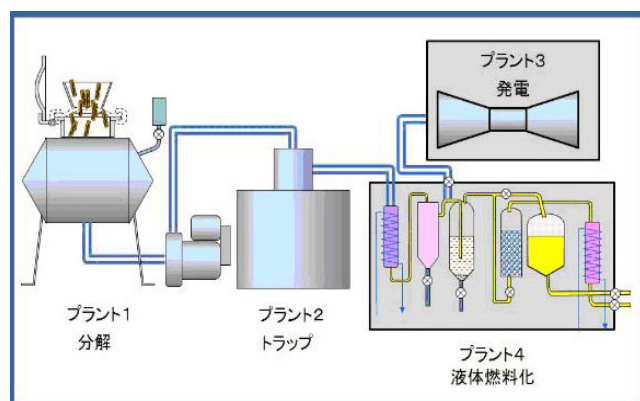
多分、原油価格高騰(1ガロン約100ドル)の  
おり、『それは凄い』『そんな技術があるの  
なら、うちでも検討したい』、でも、『それ  
って本当なの?』、『怪しいなァ・・・』等と  
言ったやりとりなのではないでしょうか。

もっともなことです。別のプレゼンの場  
においても、似たようなやりとりがありますか  
ら・・・。

でも、ご安心ください。この技術はただ  
いま実証試験中ですが、来夏か来秋には、具  
体的に皆様へ、ご披露できそうです。また、来  
月(12月)北京で開催される“環境フォー  
ラム”では、初めて、この技術を発表する予  
定です。

そこで今回は、パート2ということで、も  
う一步踏み込んだお話をさせて頂きますね。

まずは、簡単なシステムのフロー図を下記  
に紹介致します。



システムのフロー図

この技術は、前回お話しました通り、既に  
完成している2つの技術を組み合わせたもの  
であり、とても安全で効率的、かつ経済性  
にも優れており、従来型の弱点を、広くカバ  
ーしている点が特徴です。

当初、北海道での「洞爺湖サミット」へ出

展とのお話も頂いていたのですが、サミッ  
トで開催が7月初旬では、プラントの完成に  
間に合いそうにありません。それに手続き  
にも相当手間取りそうだし・・・、そのよう  
な訳で、残念ながら今回は見送りました。

10年前、京都で開催された国際環境会議  
「COP3(気候変動枠組条約)」(例の京都  
議定書が議決された会議です)の時は、弊  
社(の前身)が技術開発した『BDF(バイ  
オ・デュセル燃料)』製造装置が出展され、  
大きな反響を呼びました。そして、その  
技術は京都市でも採用され、日本におけ  
るBDF技術の大きな礎となりました。

その意味合いにおいて、今回、折角の  
日本の国際会議の場で、日本の新しい技  
術を、世界の皆様へご披露できるチャン  
スを逸したことは、とても残念なことで  
す。

話は変わりますが、現在、アメリカや、  
ヨーロッパ、アジア諸国(特に中国)で  
は、国と資本家が共同で、新代替エネ  
ルギーの開発に資金投入を加速させてい  
ます。今回の「北京フォーラム」は、そ  
れを象徴しております。

その結果、光触媒、風力、波力、地熱  
エネルギー、バイオエネルギー等を実  
用化、一般化するビジネスが、ますます  
活発化してきております。

そして、技術開発の側面だけでなく、  
コスト面からのアプローチも盛んで、  
イニシャルコスト(装置費)やランニン  
グコストは、どんどんと改善されつつあ  
ります。多分、廃棄物等、バイオマス全  
般からエネルギー転換できる、オンサイ  
ト型の装置は、ここ数年で、完了するも  
のと思われます。

本当は、もっと詳しくお話をさせて頂  
きたいのですが、ただいま特許申請中  
ということもあり、今回は、ここまで  
とさせて頂きま

## 法人協会ニュース

### 原油価格の高騰を受けた緊急対策について

原油価格の上昇に伴い軽油等燃料の農業者購入価格が高騰しており、経営にも大きな影響が出ているかと存じます。

農林水産省は、原油価格の高騰に耐え得る産地体制を早急に確立する観点から、省エネルギー型の農業機械等の導入を支援する「原油価格高騰対応省エネルギー型農業機械等緊急整備対策」を実施します。

対象となる農業機械は下記の通りです  
(1/2~1/3の補助です)。

水稻直播機

田植機(高速作業が可能な機構又はディーゼル機関等の省エネルギー機構を有するもの)

コンバイン(普通型で複数の収穫機能を有するもの又は収穫物の生体量測定及び品質分析の機能を有するもの)

共同乾燥調製施設における穀物遠赤外線乾燥機等

詳細につきましては、当協会ホームページをご参照下さい。

ご不明な点がございましたら、当協会事務局もしくは農林水産省生産局農産振興課技術対策室(03-6744-2111)までご連絡下さい。

### GLOBALGAP(旧EUREPGAP)講習会(農産編)のご案内

日本におけるGLOBALGAPの審査機関であるSGSジャパン株式会社において、以下のとおりGLOBALGAP Ver.3の講習会が開催されます。

ご興味をお持ちの方には詳細案内・申込用紙をお送りしますので当協会高須までご連絡下さい。

日時：2008年1月28日(月)~29日(火)

各日ともに9時~18時

場所：横浜ランドマークタワー

参加費：45,000円

(消費税別、テキスト代含む)

申込締切日：2008年1月15日(火)

## 書籍のご案内

当協会会員の向けの割引価格にて、下記の書籍をご案内いたします。

### 『農業ブランドはこうして創る』

<特色>

新法「中小企業地域資源活用促進法」により農林水産品など地域資源のブランドが期待されています。本書は、その計画、実施に直接お役立ていただける内容です。

“農業ブランド”誕生の過程にある戦略」と「物語」のエッセンスを浮き彫りにしました。

【編著者】後久 博

B5判・定価2,800円(本体2,667円+税) 送料340円

【会員特別価格】**2,520円**(税込) 送料発行所負担

### 『わかりやすい農薬等の ポジティブリスト制度Q&A』

<特色>

ポジティブリスト制度に関する種々の疑問に対して、制度を施行する厚生労働省をはじめ、生産段階での指導を行う農林水産省、地域で指導を行う都道府県及び生産者や食品事業者に指導する生産・食品関係団体が、それぞれの立場から作成した質疑応答集です。

【編集】農薬等ポジティブリスト研究会

A5判・定価3,300円(本体3,143円+税) 送料340円

【会員特別価格】**2,970円**(税込) 送料発行所負担

お問い合わせ・お申し込みにつきましては、当協会事務局もしくは下記までご連絡下さい。

株式会社ぎょうせい

東京支社 営業課(担当 阿部)

〒162-8541 東京都新宿区東五軒町1-2

TEL (03)3269-2239 FAX (03)3268-1368

E-Mail: Eigyo\_Tokyo@gyosei.co.jp

### アグリビジネス経営塾 第348号

本紙に関するお問合せは下記までお願いします。  
社団法人日本農業法人協会

(HP <http://www.hojn.or.jp/>)

TEL:03-5156-0365/ FAX:03-5156-0366

MAIL: juku@hojn.or.jp

©(社)日本農業法人協会 2007

本紙掲載記事の無断転載を禁じます。